産後デイケアサービス

福井県高浜町保健福祉課

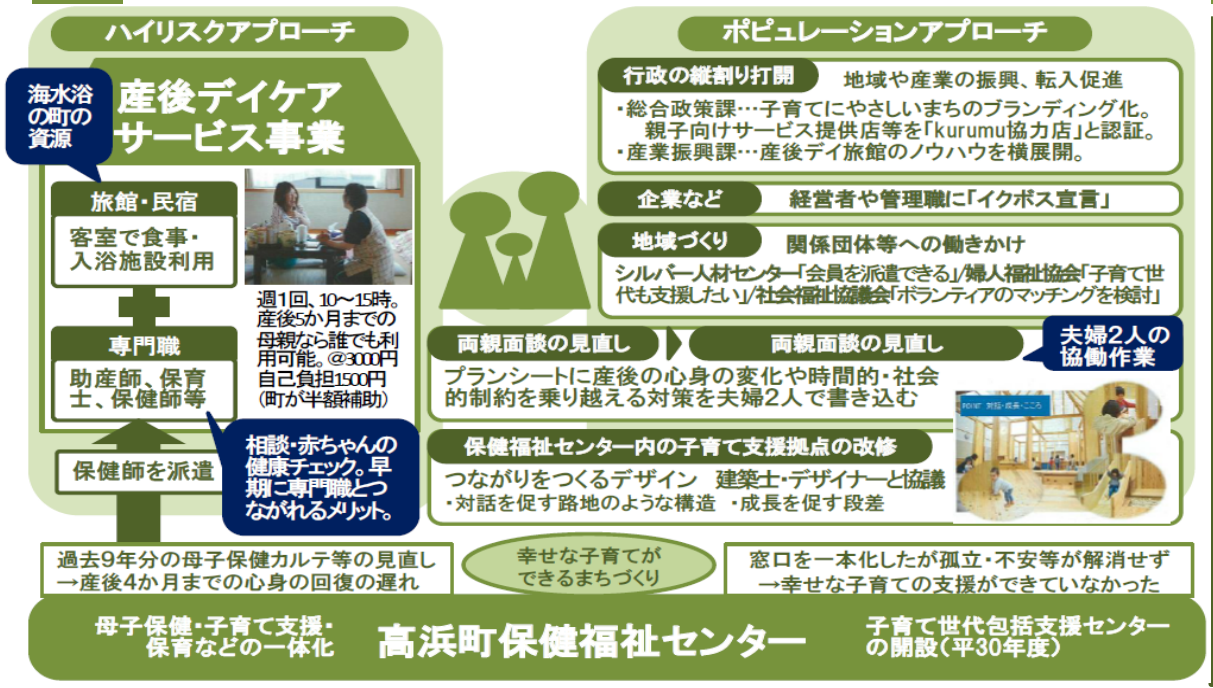
福井県高浜町では、海水浴の町の社会資源である旅館・民宿を産後デイケアサービスの場とするユニークな事業を実施している。産後5か月までの要支援産婦等が対象で、専門職も出向く。切れ目のない支援体制を敷いたが、問題が解消しなかったことから、9年分の母子保健カルテ等を2年かけて分析。子育てに優しい町づくりを目指して行き着いた。旅館等の商機にもなるWin-win事業なので、企画部門も乗り気で町を挙げた取り組みになっている。

概要・体制

・過去9年分の母子保健カルテ等を分析し、産後の回復の遅れが育児の不安や困難を招いていると分析し、産後デイケアサービスを開始。提供者が旅館・民宿である点が最大の特徴。医療機関委託のケースが多いが、旅館等であれば、客室で食事がとれ、入浴も可能で、心身がリラックスできるとして好評。対象は、産後5か月頃までの不調を訴える母親と子。利用料は3000円で、町から4回1500円の補助がある。一方、平成30年度に子育て世代包括支援センターkurumuを設置し、子育てに優しい町に舵を切った。

背景・課題

・平成19年度から、母子保健、子育て支援、保育、要保護児童対策を一体化、窓口も一本化し、切れ目のない支援を実現したつもりだった。
・しかし、特定妊婦や、家族機能が低下して産後支援がない家庭、孤立する母親、貧困などの課題は改善しなかった。



保健センターの連携機能・役割

・母子保健や子育て支援等を一体化したが、課題が解決しなかった。そこで、9年分の母子保健カルテ等をロジックツリー等も用い、検討を重ね、「どんな町にしたいかを考えていなかった」と結論した。
・産後の回復の遅れが原因と判明したことから、海水浴の町の社会資源でリラックス空間である旅館・民宿に打診。健康増進計画の策定・推進で10年以上の関係がある旅館等の女将（元助産師、食生活改善推進員ら）4人の協力が得られ、開始できた。
・産後の変化等を乗り越える方策を記入するシートを作成し、育児における夫婦の協働作業を促進。
・子育てを支える地域づくりのため、地域団体等から子育て世代とボランティアのマッチングなどの方策を引き出す。企業等向けにイクボス宣言を導入。
・子育てに優しい旅館・民宿が話題となり、全庁的な動きに拡大。子育てに優しい店等を「kurumu協力店」に認証する制度を展開することを決めた。

効果・成果

・要支援産婦の86%が1回以上、平均2.4回、産後デイケアサービスを利用している。
・利用者からは「気分転換になる」「本音で話せる」「専門職とつながれる」との声が聞かれ、子育てを体験する機会が少ない中、利用者同士がつながる機会となっており、好評。
・産後デイケアサービスを提供する旅館等からは、「産婦にはどんな料理が良いか？」といった相談が入るようになり、支える意識が強くなった。地域団体も、支援策を提案した。
・総合政策課や産業振興課なども子育て支援が町の売りになると認識し、協力的になった。

ポイント

●母子保健カルテ等を2年間検討、●町の資源を活用、●早期に専門職とつながれる、●協力依頼した旅館等の女将は保健活動で関係のある人材、●企業等に「イクボス宣言」を導入、●地域団体等の協力を得た、●町の活性化につながるWin-win政策

産後デイケアサービス
福井県高浜町保健福祉課（連携体制構築に向けたプロセス）

Ⓐ 俯瞰的立場の職員

俯瞰的立場の職員の存在

・町長がマニフェストに子育て支援を掲げ、イクボス宣言も行った。

⓪ 位置についてヨーイ

・平成19年度に**母子保健、子育て支援、保育、要保護児童対策等を一体化、窓口も一本化し、切れ目のない体制をつくった。**

② 根拠を集める

・「どんな町にしたいかを考えていなかった」ため、支援が幸せな子育てにつながらなかったことが判明。**過去9年分の母子保健カルテやアンケートを「ロジックツリー」で分析し、産後の心身の回復の遅れも原因とわかった。**

⑤ ツールをつくる

・子育て支援拠点を対話を生む構造に改修する一方、**両親面接等で使用する「笑って育児をするプランシート」を作成。**産後の変化を乗り越える方策を夫婦で記入し、協働作業を促進。

⑥ 育てる、促す

・**地域づくりの方策を打診すると、シルバー人材センターは「会員を派遣できる」、社会福祉協議会は「子育て世代とボランティアのマッチングを検討」等を提案し事業化を検討。**
・管理職が行う「イクボス宣言」を創設。
・**産業振興課が産後デイ的な旅館の横展開**を検討し、**総合政策課は子育てに優しい町のブランディング化**を進め、子育て支援店等を「kurumu協力店」に認証する制度を創設し、町外からの集客も増やす方針に発展。いずれにも、保健センターが協働で関わる。

⓪ 位置についてヨーイ → ① 風をつかむ → ② 根拠を集める → ③ 仲間をつくる → ④ 協議組織をつくる → ⑤ ツールをつくる → ⑥ 育てる、促す → ⑦ 評価・フィードバック

① 風をつかむ

・**ところが、母親の孤立や育児不安等は減少せず、虐待の複雑化等の問題も解消しなかった。**
・そこで、平成30年度の**子育て世代包括支援センター開設に向け、「原因追究ツリー」で原因を掘り下げた。**

③ 仲間をつくる

・**保健師らで2年間分析と議論を重ね、それまでの支援はハイリスク者中心で、親が幸せに子育てでき、親の力が育まれる支援になっていなかったことを確認**した。
・また、分析で「産後サポートがなく休めない」「誰に相談したらいいかわからない」という声を把握したため、心身の回復を促す産後デイケアサービスの導入を議論した。
・しかし、町に産科医院がなく、同事業を医療機関委託した市町村等にリサーチすると、医療機関では病人扱いされるなどのデメリットもあるため、**海水浴の町の最大資源である旅館・民宿に着目。健康増進計画の策定・促進で関わりがある旅館の女将（元助産師、食生活改善推進員など）に打診し、「食事や入浴施設がある旅館等を活用した産後デイケアサービス」の創設を決定。**平成30年度に4軒で開始した。

⑦ 評価・フィードバックする

・保健センターで母子保健カルテやアンケート調査結果等を**分析した結果と対策等を関係者と共有したことで、町全体の動きに昇華**できた。
・子ども・子育て支援計画や健康増進計画に反映させ、制度化を担保

Ⓑ 人材育成の意識

人材育成の意識

・「当初は旅館等に場所を借りる程度で、産業活性化等は念頭になかった」が、**保健センターには、母子保健等の個別対応に満足せず、人と資源をつなぎ、町全体を見て、動かす機能が不可欠と認識。上流対策の視点を持って、つなぐことが重要**と認識。